

シャッフル・ビート

シャッフル・ビートの特徴

シャッフル・ビートとは、ブルースにおける最も基本となるビートです。

その名の通り、「シャッフル」とよばれる
3連符を基調としたリズムが特徴で、独特の土臭い印象を醸し出します。

シャッフル・ビートの特徴は以下のとおりです。

- シャッフルを基調としたリズム
- けだるいビート感
- ルーズでダブついた音色

シャッフルを基調としたリズム

シャッフルビートでは3連符を基調とする
「シャッフル」と呼ばれるリズムで演奏されます。

「タッタ タッタ タッタ タッタ」というリズム感が特徴で、
ブルースを象徴するリズムともなっています。

けだるいビート感

シャッフル・ビートは、ややルーズ目のリズム感をもつ
けだるいビート感が特徴です。

前述のシャッフルのリズムは、3連符ジャストではなく
ややルーズ目のグルーブで演奏することで、
独特のけだるさ、土臭さを醸し出します。

シャッフル・ビート

パターン①

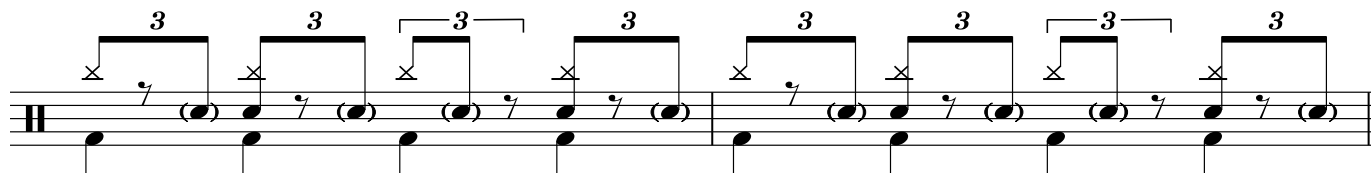
パターン②

パターン③

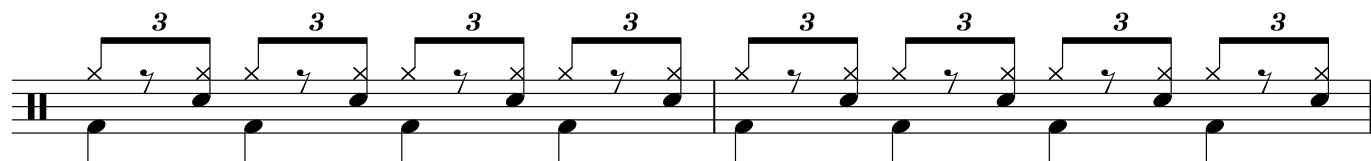
パターン④

シャッフル・ビート

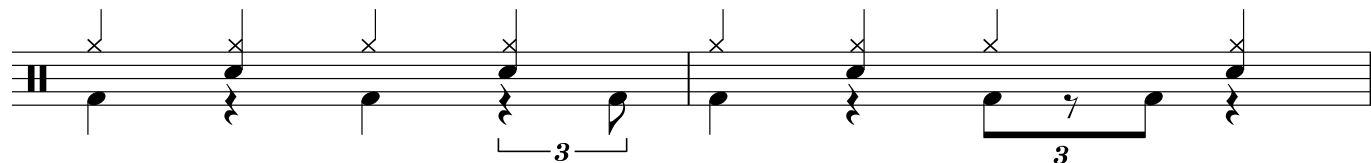
パターン⑤



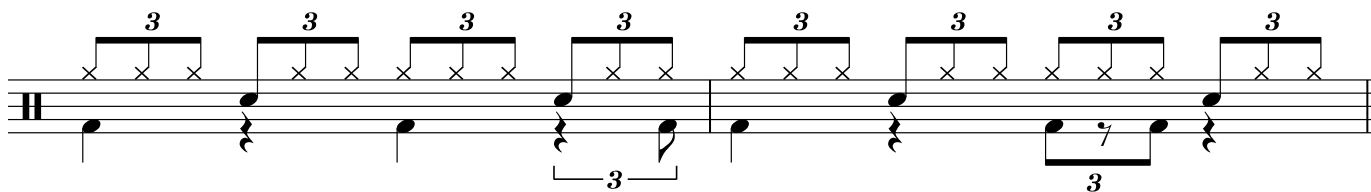
パターン⑥



パターン⑦



パターン⑧



シャッフル・ビートの音色選び

シャッフル・ビートでは「ルーズでダブついた音色」が決め手。
ドラムのヘッド(打面)を緩めにチューニングし、
皮がダブついているような印象のサウンドを選ぶとよいでしょう。

具体的には、以下の点を意識すると良いでしょう。

- 少し低めのピッチ(音程)
- ルーズなアタック(打音)
- 強めのルーム感(余韻)

シャッフル・ビート打込みのコツ

■ シャッフル・ビートのベロシティ

シャッフルビートでは、頭拍が最も強く、ついで3連ウラが強くなります。とはいえ、ブルースもれっきとしたブラックミュージックであり「裏ノリ」感は重要なので、3連ウラは弱くなりすぎないように注意しましょう。また、全体的にダブついた音色感を表現する上で、強すぎないベロシティ設定もポイントです。

■ シャッフル・ビートのクオンタイズ

3連のリズム感をややルーズ目に設定してあげることが重要です。そのために、ハイハットやライドの刻みは3連ウラをジャストよりややプッシュ目に配置することでルーズな印象を表現することができます。また、3拍目のキックをややプッシュ目に打ち込むのも効果的です。